

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 1 日現在

機関番号：35302

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21720315

研究課題名（和文）アジア・モンスーン地域における民族移動に伴う「土地開発史」の再検討

研究課題名（英文）Historical Land Development and Tribe Migration in Monsoon Asia

研究代表者

宮本 真二（MIYAMOTO SHINJI）

岡山理科大学・生物地球学部・准教授

研究者番号：60359271

研究成果の概要（和文）：

本研究では、東ヒマラヤ地域（東ブータン～インド北東部、アルナーチャル・プラデーシュ州）を対象に、民族移動の指標としての「埋没腐植土層」と「炭化木片」の年代測定を行った。その結果、当該地域では、約 2000 年前以降に民族移動に伴う人口増加によって土地開発が加速化された。また、約 1000 年前以降（特に 500 年前以降）に集中的な土地開発が実施されたことが明らかとなった。

一方低地（ベンガル・デルタ：バングラデシュ）を対象とした研究では、ジャムナ川中流域では、約 1200～1100 年前に形成された洪水氾濫堆積物（自然堤防状の微高地）を利用するかたちで、それ以降に生産域と居住域の開発が行われた。その後も、幾度かの洪水に見舞われながらも、盛土の主体部の維持管理はマティ・カタによって、恒常的に実施されてきた。さらに、少なくとも約 1300 年前までには当該地域において、生産域としての水田開発に連動する形で、近隣地域に屋敷地が形成されたものと推定した。

研究成果の概要（英文）：

In this study, dated charcoal and buried humic soil layers (including humus materials), both of which are evidence of forest fires indicate past deforestation and agricultural land development by tribe migration around Eastern Himalayas (eastern Bhutan to Arunachal Pradesh, north-eastern India). Around the eastern Bhutan to Arunachal Pradesh area, human impacts such as population growth by tribe migration may have accelerated environmental and agricultural changes after ca. 2 ka yrs BP, mainly. Relatively intense agricultural land formation that occurred since ca. 1 ka yrs BP (mainly after ca. 0.5 ka BP) was due to tribe migration.

On the other hand, in Bengal delta (Bangladesh), we analyzed the changes of relationship between geo-environment and agricultural land development around the central Jamuna (Brahmaputra) River, central Bangladesh. Based on sedimentary facies analysis and AMS radiocarbon dates, some conclusions are as follows: Natural levee along the Jamuna river have formed until ca. 12 to 11 k cal yrs BP; Homstead (*bari-bhiti*) were repaired by public works (*mati-kata*) from some flood events; Paddy fields and homestead were created since ca. 1.3 k cal yrs BP around the central Bangladesh (central Bengal delta) .

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：人文地理学、人文地理学

キーワード：ブラマプトラ川・土地開発史・民族移動

1. 研究開始当初の背景

(1) ブラマプトラ川流域を対象とした先行研究で歴史叙述に関わる文献、さらには考古資・史料を用いた研究蓄積と資料残存性が乏しく、通常的手法による歴史叙述が困難であった。

(2) 当該流域で活発な民族移動が確認されているが、流域全体を一つの単位(系)として対象化した研究例がない。

(3) 大半の地域研究は、自然そのものを対象とした研究。もしくは、人間活動自体を対象とした研究に二分され、「人間の環境としての自然」という視点からの研究が極めて少ないことを再認識したこと。

(4) アジア・モンスーン地域の低地～丘陵部における現象の相対化のため、近接地域間の比較研究の必要性を強く感じた。

2. 研究の目的

(1) 先史時代以降の地形や植生の短期変遷が人間活動に与える影響を把握すること。

(2) 民族移動に伴い人間が自然を利用・変化してきた影響を検討する。

3. 研究の方法

「文字資・史料にとぼしい地域」を対象とするため、「埋没腐植土壌」や「炭化木片」など【間接的な物証】を素材として活用し、現在の土地利用実態。伝統的農具の型式編年。さらには断片的に保存され、確認されている文字資・史料を補足的に用いて、検討した。

4. 研究成果

農作物の生育が限定的な山岳高所や。洪水氾濫によって生産・居住域の維持にも危機がもたらされる低地へなどの「不安定な場所」を積極的に居住地として選択した事実が認められた。この「不安定な場所」への移住は、既存研究において、紛争・経済・信仰の根拠によって定型的に説明されるが、合理的な知見ではない。さらには、右図のように民族移

動ルート的一端が明らかになってきたが、南・東方部の移動ルートが不明である。つまり、この課題を克服するためには、流域全体を一つの単位(系)として対象化した研究が今後、必要である。さらには、同じ気候環境下にあるアジア・モンスーン地域の低地～丘陵部における現象を相対化するため、近接地域間の比較研究の必要性を強く認識した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

【雑誌論文】(計6件)

①宮本真二・安藤和雄・アバニイ・クマール・バガバティ・ニッタノンダ・デカ・トモ・リバ(2013) 東部ヒマラヤにおける土地開発史。ヒマラヤ学誌, 14, 82~90.

【査読有】

②Shinji Miyamoto, Kazuo Ando, Nityananda Deka, Abani Kumar Bhagabati and Tomo Riba (2011) Historical Land Development in Central and Eastern Himalayas. Journal of Agroforestry and Environment, 5 (Special Issue), 37-40.

【査読有】

③宮本真二・内田晴夫・安藤和雄・セリム ムハマッド(2010) ベンガル・デルタの微地形発達と土地開発史の対応関係の解明。地学雑誌, 119 (5), 852-859.

【査読有】

④Shinji Miyamoto and Kazuo Ando (2010) Buried Humus Soil Layers and Land Development in Central and Eastern Himalayas. Bhagabati, A. K. ed., "Short paper and Abstracts: Agricultural Ecosystem and Sustainable Development in Brahmaputra Basin, Assam, India", 56-61.

【査読有】

⑤宮本真二・内田晴夫・安藤和雄・ムハマッド・セリム (2009) 洪水の環境史-バングラデシュ中央部, ジャムナ川中流域における地形環境変遷と屋敷地の形成過程-. 京都歴史災害研究, 10, 27-34.

【査読有】

⑥宮本真二・安藤和雄・アバニィ・クマール・バガバティ (2009) ヒマラヤ地域における民族移動と土地開発過程. ヒマラヤ学誌, 10, 64-72.

【査読有】

〔学会発表〕(計 20 件)

①宮本真二・内田晴夫・安藤和雄・ムハマッド・セリム・アバニィ・クマール・バガバティ・ニッタノンダ デカ「ベンガル・デルタにおける地形環境の変遷と民族移動に伴う土地開発史の関係性の検討」考古学研究会第59回総会(ポスター), 2013年4月20-21日. 岡山大学.

②Shinji Miyamoto: “Geomorphological Development (Geo-environmental changes) and Human Activities in central Japan and Bengal Delta “. International Workshop on People’s Centered Practice towards Harmonious Development in Asia”. DUS Complex, Hatiya, Bangladesh, 7 - 8th Mar. 2013.

③宮本真二「ベンガル・デルタ中部と日本列島中央部の沖積低地の地形環境変遷と土地開発の比較」京都大学防災研究所一般共同研究集会 24K-07 第8回南アジアおよびインドシナにおける自然環境と人間活動に関する研究集会-人間活動に対するサイクロン・洪水の影響-, 京都大学防災研究所, 2012年12月23日.

④宮本真二・安藤和雄・アバニィ・クマール・バガバティ・ニッタノンダ デカ「東部ヒマラヤにおける土地開発史の再検討」. 人文地理学会大会, 立命館大学, 2012年11月18日.

⑤Shinji Miyamoto, Kazuo Ando, Nityananda Deka, Abani Kumar Bhagabati and Tomo Riba: “Historical Tribe Migration and Land Development around the Eastern Himalaya”. International Workshop on Changing Environmental & Development in Rural Communities of Bhutan and other Asian countries. Sherubtse College, Bhutan, Royal University of Bhutan, Kanglung,

Tashigang, Bhutan, 3rd - 4th Sep., 2012.

⑥宮本真二・内田晴夫・安藤和雄・ムハマッド・セリム・アバニィ・クマール・バガバティ・ニッタノンダ デカ「ベンガル・デルタ中央部における約1300年前の地形環境の安定期と民族移動の関係性の検討」. 第55回歴史地理学会大会, 新潟大学, 2012年5月13日.

⑦Shinji Miyamoto, Haruo Uchida, Kazuo Ando and Muhammad Salim: “Geo-environmental Changes and Agricultural Land Development in Bengal Delta”. INTERNATIONAL WORKSHOP ON “SHARING EXPERIENCE OF COPING WITH ENVIRONMENTAL PROBLEM AND SUSTAINABLE DEVELOPMENT”. By Yezin Agricultural University, Myanmar and Center for Southeast Asian Studies (CSEAS), Kyoto University, Japan. Yuzana Hotel, Yangon, Myanmar. on 13-14th Feb., 2012.

⑧宮本真二・内田晴夫・安藤和雄・アバニィ・クマール・バガバティ・ムハマッド・セリム: 「ベンガル・デルタ中央部における約1300年前の地形環境の安定期と土地開発」. 京都大学 防災研究所一般共同研究集会 23K-07 「第7回南アジアにおける自然環境と人間活動に関する研究集会-インド亜大陸東部・インドシナの自然災害と人間活動-」共催: 首都大学東京、総合地球環境学研究所、京都大学東南アジア研究所、京都大学生存基盤科学研究ユニット, 2012年2月4-5日.

⑨安藤和雄・宮本真二・大西伸弘: 「東ブータンの Brokpa と Monpa に関する調査ノート-アルナーチャルプラデシュとの比較の視点から-」. 第21回熱帯生態学会, 琉球大学, 2011年5月28-29日.

⑩宮本真二・安藤和雄・Nityananda Deka・Abani Kumar Bhagabati・Tomo Riba: 「グレート・ヒマラヤのなかでの「ブータン~アッサム・ヒマラヤ」の位置」. 京都大学生存研究所・第6回 南アジアの自然環境と人間活動に関する研究集会インド亜大陸北東部, アッサム, メガラヤ, バングラデシュの自然災害と人間活動. 京都大学防災研究所, 2011年2月20日.

⑪Shinji Miyamoto, Kazuo Ando, Nityananda Deka, Abani Kumar Bhagabati and Tomo Riba: “Historical Land Development in Central and Eastern Himalayas”. Grassroot Level International Workshop in Dirang “Health and Development among Highlanders in

Arunachal Pradesh, India”, National Research Center on Yak, Dirang, Arunachal Pradesh, India. February 9-10th, 2011.

⑫Shinji Miyamoto, Kazuo Ando, Nityananda Deka, Abani Kumar BHAGABATI and Tomo Riba “Historical Land Development in Central and Eastern Himalayas”. International Workshop in Myanmar: Integrated studies on the sustainable agriculture and rural development toward research and education. Department of Agronomy, Yenzin Agricultural University, Myanmar, Jan 15-16th, 2011.

⑬Shinji Miyamoto “Buried Humic Soil Layers and Land Development in Central and Eastern Himalayas”. International Workshop of Contemporary Changes in Environment and Development, Bangladesh Agricultural University, Mymensingh, Bangladesh, Dec. 13-14th, 2010.

⑭Shinji Miyamoto, Kazuo ANDO and Abani Kumar Bhagabati : “Buried Humic Soil Layers and Agricultural Land Formation Process in the Himalayas”. 23rd Annual Conference of the Indian Institute of Geomorphologists. Gauhati University, Assam, India, 21th, Nov., 2010.

⑮宮本真二：「間接的な方法からみた土地開発史—アジア・モンスーン地域における民族移動と土地開発—」, 東京外国語大学 2010 年度第 2 回研究会「社会開発分野におけるフィールドワークの技術的融合を目指して」, 東京外国語大学, 2010 年 10 月 24 日.

⑯宮本真二・内田晴夫・安藤和雄・アバニィ・クマール・バガバティ・ムハマッド・セリム：「ベンガル・デルタ中央部の地形環境変遷と土地開発」歴史地理学会大会, 高崎経済大学, 2010 年 5 月 15 日.

⑰宮本真二・安藤和雄・内田晴夫・アバニィ・クマール・バガバティ・ムハマッド・セリム：「ブラマプトラ川流域の高所～低所における民族移動と土地開発」. 第 135 回 生存圏シンポジウム 第 5 回 国際研究集会「南アジアの気象環境と人間活動に関する研究集会」京都大学東南アジア研究所, 生存圏研究所, 2010 年 1 月 30・31 日.

⑱宮本真二・安藤和雄・内田晴夫・アバニィ・クマール・バガバティ・ムハマッド・セリム：「ブラマプトラ川流域の高所と低所における土地開発過程」. 人文地理学会大会, 名古屋

屋大学, 2009 年 11 月 8 日.

⑲宮本真二・内田 晴夫・安藤 和雄・ムハマッド・セリム：「バングラデシュ中央部, ジャムナ川中流域における地形環境変遷と屋敷地の形成過程」. 日本地理学会秋季学術大会, 琉球大学, 2009 年 10 月 25 日.

⑳Shinji Miyamoto and Kazuo Ando 「Buried Humic Soil Layers and Land Development in Central and Eastern Himalayas」. 14th International Conference of Historical Geographers, Kyoto University, Kyoto, 2009 年 8 月 23 日.

〔図書〕(計 2 件)

①Shinji Miyamoto, Kazuo Ando and Abani Kumar Bhagabati (2010) Agricultural Land Formation Process and Deforestation in the Himalayas. Kinda et al., eds. “Proceedings of the International Conference of Historical Geographers, Kyoto 2009”, Kyoto University Press, 213.

②宮本真二 (2011) ヒマラヤの埋没腐植土層にみる土地開発史. 奥宮清人 (編)『生老病死のエコロジー—チベット・ヒマラヤに生きる—』, 昭和堂, 90-91.

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.big.ous.ac.jp/~miyamoto/>

→岡山理科大学生物地球学部地理学研究室

<http://miyamoto-s.net/>

→宮本真二公式 Web

<http://miyamoto-labo.net/>

→宮本真二研究室公式 Web

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宮本 真二 (MIYAMOTO SHINJI)

岡山理科大学・生物地球学部・准教授

研究者番号：60359271

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：